

# 環 KAN ・太田川

創刊号



## 目次

---

小林一彦の あしたはどっちだ?! .....	2
100% クリーン こちら夢中力発電所 .....	4
太田川水系の魚 .....	6
絵画・写真で蘇る太田川 .....	7
投稿コーナー .....	8
瀬 音 .....	9
いっしょにやります専科 .....	10
環KAN学GAKU .....	12
オヤ??ニラミ.....	14
みずべの図書館・インフォメーション .....	16

---

---



小林一彦のシーカヤック「ウイスキーズルー号」。  
観音マリナから宮島まで、約2時間弱で漕ぎ渡る。  
川下りには、「ゴムカヌーのベンツ」と呼ばれている  
ドイツ・クラブナー社の「ホリデー2」を使用する予定。

# あしたは どっちだ？!

祝  
創刊熱血奇行 じゃなかった奇稿!

ブラリスト小林一彦の



太田川のようにセクシーな男  
小林一彦

昨春秋、網膜剥離を患い、3週間に及ぶ人生初の入院生活を体験した。そこで、病棟内では、そのひとの病名が、「肩書き」になってしまふことに気づいた。たとえば僕なら当然「網膜剥離の小林くん」だし、70過ぎても背中がピシッと伸びた元気なジイちゃん「糖尿の藤本さん」と呼ばれていたし、ほかに「人工透析の沢田さん」や「尿道結石の田中さん」という具合。もう大会社の重役であろうが、ヤクザだろうが、学生であろうが主婦であろうが、パジャマを着せられ無慈悲にも病名でカテゴライズされてしまふのだ。朝昼晩の三食を得るためには、配膳室に行儀よく整列せねばならなかったりもする。うっかり割り込みでもしようものなら入院歴半年のおばあちゃんに「コリヤ! 番ぬう(広島弁で「順番を抜かす」という意味) はイケン!!」と叱られるのである。ある意味で病棟内とは、この地球上で最も平等な一個人、生身の人間としてはかない「俺」や「ワタシ」をつくづく自覚させられるエリアといえるかも。

実のところ、僕は肩書きというモノを複数持っていて、収入の多い順に羅列すると 広告デザイナー事務所のコピーライター兼ディレクター FMのDJ(コミュニティFM局ひろしまPステーションの毎週火曜日夕方2時間生番組「土橋町名物・元祖タヤケドンブリ」76・6MHzを担当。) ミュージシャン(ジャンルに捕らわれない俺だけのオリジナル、つまり「俺ジャンルソング」をひっさげ西日本各地でライブ展開中) コラムニスト(全国版フリーペーパーB・B誌上にて「小林一彦の屈折流れ旅」好評連載中) 武道家(所属している武道団体「心体育道」の教則ビデオで実技演武を披露し、今年ビデオデビューを飾る。決してAV男優ではない)

…とまあこうゆうことになるのだが、これでは人に説明するのにひどくホネが折れるうえに、しばしば誤解を招くこともある。「小林くんってミュージシャンじゃなかったかいの?」「いや、デザイナー事務所に勤めるハズだぞ」「身体がムキムキだが、いつ鍛えているんだ?」「FMでしゃべっているのを聞いたことがあるで」となり、結論として「ううむ、一人の人間にこんなことが全部出来るハズがない、やっぱりアヤツは信用できないの」「そっじゃ気をつけよーで」「カネ貸すなよ!」てな具合だ。もっとひどいやつは「小林はですね、ありゃあくローンなんですよ。カレを同時に別々



の場所を見た、ゆうハナシもあるぐらいですから。それも話題の最新クローン技術を使ったわけじゃなく、半分に切ったら増えるわけですから単純ですナ、ズバリ原生動物物です」などと、まことしやかにのたまったりするので始末におえん。

まあ、いい。人が混乱しようが誤解しようが別にしまわん。なにせ、俺の中ではそれらが別々に存在しているのではなく、しっかりとリンクしているからである。つまり「環」なのだ。「環・太田川」、実にいいタイトルじゃないスガ。その太田川の循環に異変が起きているようだ。宇宙のリンクが見えない人は無関心でいられるのだろつが、太田川は人間の体に例えるなら「広島の脊髓」、ここをヤラれると四肢も麻痺する。太田川が健康を取り戻すために、僕もアクションを起こしたい。それには、「興味があるひとだけ集まってくればいい」という発想じゃダメだと思う。「そんなもん全然キョーミない」という人にこそ、語りかけていかななくては、大きなうねりは起こせない。方法はこれから提案するつもりだが、とりあえずやってみたい企画がある。編集スタッフの原テツン（この男は「のりゆき」が本名だそうだが、初対面の人間にそう呼んでもらったことは一度もない）、僕と一緒に、初夏に太田川の源流からカヌーで、かつての川舟が往来した航路や港の面影を探訪し、この「環・太田川」でレポートする、というの、いかが？

てな、原稿をまったくの思いつきで編集部に送ったところ、「ほいじゃさつそく川下り、やりましょつやー」という元気のいい返事をテツンからもらって、やや困惑している（笑）。僕としてはこの「環」には一読者というスタンスをとるつもりだったので、このように大きく編集にコミットするハメになるとは思わなかったもんで。風雲急を告げるオーブニング、引くに引けない川下りプランの詳細は次号を待て。西にうまい酒があると聞けばヨロヨロ、東にイイ女がいると聞けばヨロヨロ…流され続けるブラリスト小林の、あしたはどつちだ?!

インタビュー  
シリーズ

100%クリーン

## こちら夢中力発電所！！

ひろしま・県流域木材利用ネットワーク  
太田川流域の木で家を作る会

代表世話人 下田 卓夫さん

山・都市両方に価値観の転換が必要では…

このコーナーでは、「こんなふうに変わっていかんかのう。こうなったらええのう。」といるなことに取り組まれているグループや個人の方にインタビューします。第一回は、「広島の家は太田川の木でつくろつや。」と頑張っておられる「ひろしま・県流域木材利用ネットワーク/太田川流域の木で家をつくる会」の下田卓夫さんに聞きました。

## どうしたら山が元気になるだろう

どうして太田川流域の木で家を作ろうと思われたのですか。

「家づくり（下田さんは一級建築士として建築事務所を開いております）に携わっていて、職能として地域の環境問題に何か役に立てないか、と常に考えていました。広島というまちは太田川に大変な恵みを受



けているわけですが、それは上流の山のおかげでもあるわけです。でも、今は上流の町や村に元気がなく、山も大変荒れていいます。その大きな理由として、流域の山で生産される木材がほとんど使われなくなった、流通しなくなったことがあります。木材が流通しないと山元にお金が落ちなくなり、それが過疎や高齢化に拍車をかけます。経済的なメリットがなければ、間伐などの山の手入れも進まず、森林が荒廃し、結果的に土石流災害や水質が悪くなったりと、太田川にも影響が出てきます。

ここ数十年のうちに、外材などに依存する建築業の流通スタイルが定着してしまっただけに、こういう状況になってしまったわけです。でも、もともと私たちは古くからそれぞれの川筋の山に生える木で家を作ってきたんですから、家づくりに携わる者として、少しでも山元が元気になって、山が、川が元気になるのを手伝いするには、この流通システムに風穴を開けるしかないんじゃないかと思えました。それは、既成の組織、流通形態に縛られない、新しい、『お互いの顔が見える』家づくりのネットワーク、私たち設計者がサーパーになって、施主・生産・技術者間のネットワーク、いってみれば、『循環』を構築することになり、とても魅力的な取り組みだと感じました。

それに流域材で家を作るといことは、ちょうど地元で生産される食物を頂くのと同じように、『素材の分かった、温もりのある家に住みたい』という都市側の住まい手の希望に応えることにもなるんです。

具体的にはどんな活動を？

最終的には、流域材を使って家を建築するのが私たちの仕事ですが、その前に、住まい

手、大工さんや製材所等の業者さん、木を供給する山元がお互いに顔を合わせて学び合えるよう努力しています。森林組合の方や大工さん、設計者などが参加するセミナーや座談会を企画して、施主さんが家づくりを業者任せにせず、素材から自分の考えで積極的に関わることのできるようなシステムを作っています。また、森林ツアーを実施して、自分たちの家を使う木が生えている現場を見てもらい、施主さんと木を育てる山元や製材業者さんにお互いの意見を交換していただきます。同時に、林業体験などで、都市側の方々に山元の現状を肌で感じていただき、山元の方々には自分たちの山の木を利用される方の思いを理解してもらって、より質の高い素材を提供するよう取り組んでいただければ、と考えています。

## 山・都市両方に新しい価値観が必要では

今後流域材が下流の都市側の建築素材として重要なポジションを占めて、山元と下流の経済的な循環が発展していくには、何が必要だと感じますか？

「木材を使う施主さんの側から考えると、コストというものを、物の売り買いのそのときだけで判断せず、トータルに考えられるような新しい物差しが必要ではないでしょうか。たとえば外材で建てた家の方が国産材で建てた家より安いといわれます。でも、木を伐ってから最後に家が壊されてごみになるまでの環境に与える負荷まで考えに入れるとどうでしょうか。私たちの環境に対する意識を高めるためにも、そういった物差しで物の価値を計るこ

とがまずまず重要になると思います。逆に、木を提供する山元の側に立てば、従来のように木を伐って丸太を生産するところまでしか考えるのではなく、乾燥、製材、そしてその先の建築まで見通して、より質の高い素材を提供する努力をすべきだと思います。そのことが、国産材、流域材の競争力を高めることになりま。す。そのために、林業と製材が手を組むなど、都市側に質の良い素材を提供できる仕組みを作るべきだと感じています。まずは、常に山元に何棟分かの素材のストックができている状態に、それが経営的に成り立つ状態にならなければなりません。いずれにしても、ここ数年間に作られた流通システムの固定観念にとらわれないことが大事だと思います。」



今年の活動の目玉はなんですか？

「実は今年度、日本財団の里山保全活動の助成金を頂くことになりました。太田川上流の山

なることのお手伝いになれば、と願っています。」  
最後にメッセージをお願いします。



「流域材を使った家づくりに興味のある方はお気軽にご連絡ください。今年もセミナーや森林ツアーなど、楽しいイベントを企画しています。里山保全活動にもぜひご参加を。」

お申込・お問い合わせは、  
Tel 082 291 1497

有限会社 ラーバン

ひろしま・奥流域木材利用ネットワーク

太田川流域の木で家をつくる会

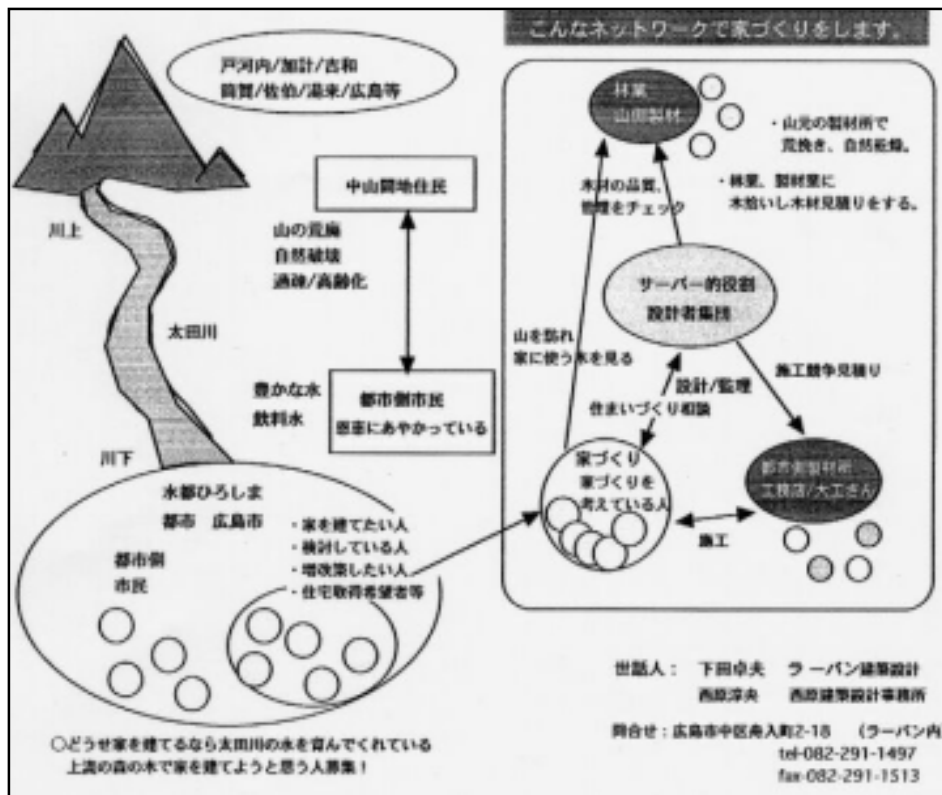
代表世話人 下田 卓夫

へ

インタビュー 平成13年2月27日  
インタビュアー 原 哲之

れるようにしたいと思います。  
そして、手入れをしただけで終わるんじゃないかと、たとえば間伐材を使って家具を作ったり、山の恵みを使っているだけ有効に利用することを楽しみながら学べたら、と思います。作業をすると、『ウッド』という単位の通貨のようなもの（エコマネー）をもらえるようにして

ます。それが、その山の木で家を作ったり、間伐材で椅子やテーブルを作るときにお金の代わりにするようになります。山に行くことが楽しみになって長続きするように、また、いろんな形で、都市側と山元との間にメンタルな面だけでなく、経済的な交流が発生するように工夫します。それが中山間地が、ひいては山が元気に



○どうせ家を建てるなら太田川の水を飲んでくれている上流の森の木で家を建てようと思う人募集！

連載

## 太田川水系の生き物たち

十五年前

太田川水系で、日本で初めて繁殖が確認された

スナヤツメは分類上では魚類ではありません。魚類の前段階の円口類に属する動物ですが、慣例として淡水魚類の中に入れて取り扱っています。

## スナヤツメ

太田川の魚

国内では円口類の間は4種が知られていますが、太田川水系で確認されているのはスナヤツメのみです。全長10～13cm、茶褐色で、口は円形で下向きに付き、眼の後方に七対の鰓穴が並ぶため、八つ眼があるように見えることから「やつめうなぎ」と呼ばれています。ちよつと鉛筆くらしいの大きさです。



スナヤツメの繁殖行動（太田川水系にて1997.5.5撮影）

幼生をアンモシーテスと呼びます。眼は皮下に隠れ、盲目です。河川の中上流域の淀みや湖沼の泥中に棲み、有機物を濾過して餌にします。アンモシーテス幼生の状態で3年間を過ごし、4年目の秋から冬にかけて変態し、成体となって河床より泳ぎ出ます。幼生期間中は泥

中で生活していることになり、川の中で泳いでいるところを見つけないことはほとんどありません。もし、見つけることがあったら、その時期は繁殖期にあたります。

繁殖期は4～6月、生息場所からやや上流の小川が繁殖場所です。砂礫底に数尾が群がって産卵床（くぼみ）を造り、卵を産み落とします。太田川水系で繁殖が確認されたのは15年前ですが、これは日本初記録です。しかし、徐々に個体数を減らし、現在では繁殖を確認す

ることは困難になってきています。環境庁が1991年に出版した「絶滅のおそれのある野生生物 通称レッドデータブック」には希少種として、1995年に広島県が、2000年に広島市が出版したレッドデータブックには絶滅危惧種として選定されています。

親はサケと同じように産卵・放精が終わると数日のうちに死んでしまいます。一匹の「死」は多くの「生」につながらなくては種の存続はできません。スナヤツメが生き続けるためには幼生が生息できる泥底が必要ですし、親が繁殖するためには砂礫底が必要なのです。泥底は流れの緩い場所でき、砂礫底は少し流れがある場所にできます。移動能力の少ないスナヤツメにとって、これら二つの環境が川の中に存在し続けなければ、スナヤツメは生き続けることができないのです。

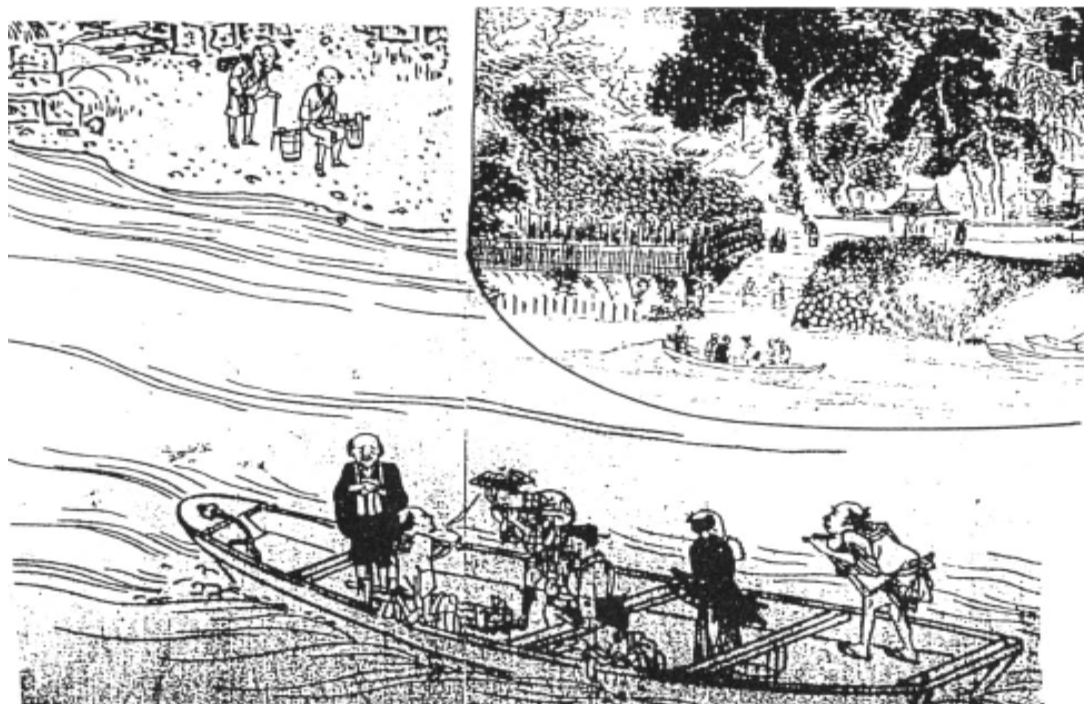
川は「瀬」と「淵」の繰り返しで構成されているものですが、河川改修によって「瀬」中心の河川形態が続けば、そこに生息する魚類相も単調になってくるのはしかたないことなのです。

川野 守生

## 写真・絵画で蘇る太田川

- その1 -

## 二百年前の渡し舟



## 空鞘前の川風景

十九世紀始め頃、  
 広島、町川（楠町よ  
 り川しも）には十か  
 所の渡し場があった。  
 最も古く創設された渡  
 しは空鞘神社前の今門  
 渡しで、『新修広島市  
 史』によれば一六二三  
 年とされている。右上

の絵はその『新修広島市史』にある  
 絵で、佐々木駿景画の『江山一覽  
 図』の一部である。小さくはつき  
 りしないが、五人の客と、後尾で櫓  
 と思われるものを持っている船頭が描  
 かれている。船に乗るためには、川  
 端の道から石段を十数段下りてくるよ  
 うになっていることが分かる。これ  
 は絵巻なので、もう少し川上の、楠  
 木運上場渡しも描かれている。

白島の渡し  
船頭は與吉

左下の絵は白島、一本木の渡しで  
 浅野藩の絵師、山野峻峰齋が描いた  
 とされている。この渡しの創設は一  
 七九〇年、藤田屋平次郎とされてい

る。創設者といえば富裕な商人のよ  
 うに思えるが実際は小さな商いの一  
 方で渡し守で僅かな稼ぎをしていた  
 町人で、『芸備孝義伝・第三編』に  
 この絵が描かれた一八四三年には、  
 すでに平次郎は病死し、その使用人  
 であった与吉という男が渡し守をし  
 ていた。

この渡し場の位置は今の京橋川の  
 工兵橋辺り、安田女子高校側から牛  
 田側を見た方向であろう。船の客  
 は、僧侶、舷に腰掛けて煙草を吸う  
 男、菅笠を被り荷物を背負う男、船  
 梁に腰かけている女、しゃがんで水  
 に手を入れている子ども、対岸を眺  
 めている男の六人で、後尾に櫓を  
 持った船頭の与吉が描かれている。  
 この操船具は櫓ではなく支点を持た  
 ないパドルのように見える。

写真と違って絵の場合は画家がど  
 れだけその対象物に精通していて、  
 写実したかどうかが問題になるが、  
 この通りの船であれば、一枚棚の平  
 田船であることになり、駿景の描い  
 た舟とは形も操船具も違っていたこ  
 とになる。

# 投稿コーナー

いろいろ寄せてえやー



## トンネルを抜けると… そこは太田川だった…

私は世間の流れとは逆行して？ 広島市内から可部線に乗って安芸飯室でおりて、てくてく歩いて職場まで通っています。朝のダイヤがますます職場に着くのが早すぎるので困っています。仕方がないので勤務開始までの長い間、ぼーっとして過ごしています。「なんでわざわざ可部線で通うんか？」とかいう人もおつてですが、雪の日も台風の日も可部線です。そういえばこないだの地震は大変でしたね。

なんで可部線に乗るんかという、車の運転がでんきのもあるんですが、窓からみる川の景色がたまらんからです。

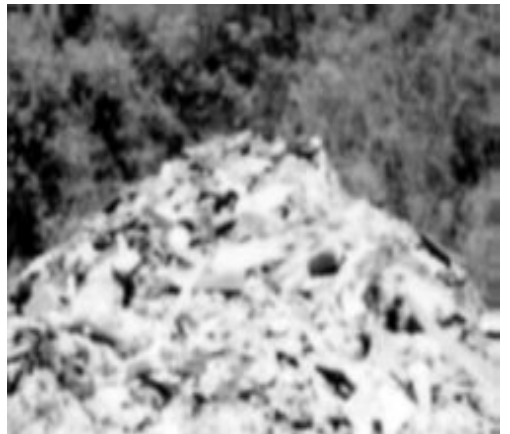
川端康成の「雪国」の出だしに、「トンネルを抜けるとそこは雪国だった」というのがありますが、可部線は「トンネルを抜けるとそこは太田川だった」です。列車が河戸の



駅をでてトンネルに入ると、枕木の音、ディーゼルの音がこだまして、なんともセンチな気分になります。

それが、トンネルを出た瞬間に、ぱーっと太田川の深い谷が飛び込んできて、センチメンタルが今度は「うわーっ」というような喜びのよくな気持ちに変わります。毎朝おんなじことの繰り返しですが、季節季節で雰囲気も違うし、あのトンネル

を出る瞬間を楽しむのが癖になります。



でも、帰りは逆です。安芸亀山をでるとトンネルに入ります。仕事で疲れた体には、トンネルの空気はとても心地良いんです。が、トンネルを出てちょっとして視界が開けると、目の前は山積みされた「ごみ」です。とたんに胸をしめつけられるような、悲しいような、なんとも落ち込んでしまいます。

「うちらもろくな暮らしをしとらんやー」 駅をでて家路をとぼとぼ歩きながら、そう考えることが多いです。といつても、できることといえば、せいぜい家の者に「あんまりごみを出さんようにしよつや」

と言っくばらいます。

なんか暗くなってしまいました  
が、可部から飯室までの毎朝の20分は、大好きな太田川に出会い、そして自分の生活を振り返る、ほかに換え難いひとときです。  
一坂 妙子



このコーナーでは、読者のみなさまの投稿をお待ちしています。B5一枚以内の分量で、紙面に表現できる形（文章、詩、短歌、俳句、写真、絵など）ならなんでもOK（〒733 0852 広島市西区鈴が峰町40 8 202原哲之方「環・太田川」編集部へ）。採否については当方に一任ください。投稿してくださいの方の了解を得た上で、内容が変わらない程度に表現を変えさせて頂く場合があります。なお、二重投稿はご遠慮ください。



# 瀬音

川端からこんにちは

このコーナーでは、川を背景にみなさまのお話をおうかがいします。お電話でお話くださっても結構です。川への思いなどお聞かせください。

この川は広島市民の命綱じゃね。今は水も汚くなったけど、昔は市内でも泳げたんよ。うちらは戦前から市内にあるんじゃけど、あのころ面白いことをいよった。

太田川清き流れと思つなよ

毎朝かよう肥たこの船

こんなこと言いよった。

どういう意味かいつたら、あのころは、毎朝上の方の農家の人が広島へ野菜を持ってきて、帰りに私らのおしっこやうんちを肥料に使うけえいつて、持って帰りよつちやつたんよ。上の方で肥をまいても水はきれいじゃけえ不思議なねえ、いう意味よ。そういうことがうなつてからの方が水が汚いよね。どう

## 可部線は太田川と切り離せんよ

昨秋、今春にかけて、可部線可部～三段峡間の存廃に大きな影響をおよぼす試験増発期間がありました。沿線では多くのイベントが企画され、休日の車中は通勤ラッシュの都市交通のようにし詰め状態になりました。今回は熱気で蒸し暑い車中で乗客の方におうかがいしました。

わしはこの沿線に住んどります。普段は車で動いています。つぶしちやいけん、いっつてみると太田川もええながめじゃね。太田川いっつのはこんな川じゃったんか、いっつのが分かるね。

確かに、普段は可部線を使いません。でも、じゃけえいつていらん、言っつ話じゃないんよね。もちろん、観光も大事じゃけど、それより何より、個人の家に車があるつと、私らの住んでる地域がどうなるか、いっつ話です

いっつことかね。可部線は太田川と切り離せんよね。広島に太田川がなくなつたら私ら生きていけんじゃ。可部線ものうなつたらいけんよ。  
(窓際に座られて車窓からの風景に見入つていらした年輩の女性)



よ。車いっつ物は個人がばらばらに乗るものじゃ。でも列車いっつのは、大人も子供も学生さんも、向かい合つて座つて、ゆつくり話をしながら動くものよね。これが大事なんよ。それはバスでもできん。こついつ場が必要なんよ。人付き合ひの大事さを考えたら、金儲けにならんけえ、いつて、やめりやあええいっつもんじゃないじゃろつ。大体広島からの全体で見たら、可部線はそんなに困つたらんじゃ。

(水内駅から乗車された中年の男性)

JRがどんな結論を出そうとも、この線路には列車が走りつづけるべきです。私はよそから広島へ出てきたんですが、広島という街は、まわりの農村、山村、漁村からいるんなものを吸収して大きくなつたわけですよ。それが、もつ大きくなれるだけ大きくなつて、周りの人も減つたら、交通手段も減らせばいい、といっつのは傲慢な話だと思います。JRの姿勢も問題ですが、これからは広島市の姿勢も問われると思います。東京への交通の便ばかりよくするんじゃなくて、まず、足をしっかりすりすべきよね。これから東京東京いっつ時代じゃないですよ。  
(リュックサックを背負つて、登山帰りの若い男性)



お話を聞かせてくださり、有難うございました。車中のお話で気付いたのは、可部線を太田川と一体で考える方の多いことでした。その思いは、日常生活で可部線を利用しない広島都心の多くの方々が、「可部線をつぶしちゃいけん」と現在も熱心に乗車されていることと無関係ではないような気がしました。

「環・太田川」では、読者の皆さまの活動・取り組みを応援します。イベントや活動への参加を呼びかけてください。情報をお待ちしています。お気軽にお寄せくださいね。

## 「<sup>ゴ</sup><sup>ギ</sup>GoGiルーム」へおこしく下さい。

国土交通省中国地方整備局太田川工事事務所

太田川工事事務所では、みなさまに気軽に利用頂ける情報スペースとして、太田川工事事務所のマスコット「ゴギ」にちなんで「GoGiルーム 太田川 小瀬川文庫」を開設いたしました。

「GoGiルーム」では、河川水辺の国勢調査結果や流量・水質等の資料、太田川・小瀬川の流域に関連する文献を自由に閲覧することができます。

利用時間は平日（祝祭日をのぞく）10:00～16:00（予定）となっておりますので、お気軽におこしく下さい。

「GoGiルーム」についてのお問い合わせは、

国土交通省太田川工事事務所総務課（082-221-2436）までお願いします。



太田川マスコットキャラクター「ゴギ」

ゴギは太田川の清流に生息するイワナ属の魚。太田川工事事務所のマスコットマークのモデルになっています。

いっしょにやります専科？

## 大規模林道ってなんだろう？

### 十方林道ウォーキングに参加しませんか

森と水と土を考える会

太田川の源流、十方山（佐伯郡吉和村）の麓のブナの森に、立派な（？）二車線のアスファルト道路（大規模林道）が建設されようとしています。「森と水と土を考える会」では、この工事のどこが問題か、「大規模林道問題全国ネットワーク」のスタッフをお招きして、実際に林道を歩きながら考える現地調査「林道ウォーキング」を行います。現地調査といっても、新緑の候、緑がまぶしい楽しいウォーキングです。一般参加大歓迎ですので、ふるってご参加ください。

日時 5月20日（日） 少雨決行

ウォーキングの場所：十方林道（恐羅漢山、十方山周辺）

集合場所：広島市内 / 県庁北側に午前8時（マイクロバスあり）

現地 / 戸河内町二軒小屋駐車場に午前10時

参加費：資料代 500円 マイクロバス利用 2,500円

お問い合わせ・申し込みは、082-293 6531

原戸 祥次郎へ（5月17日までに）

## かべせんTSUNAMI駅で桑田佳祐さんに会おう！

「かべせんTSUNAMI駅で桑田佳祐さんに会い隊」より

風に戸惑う弱気な僕...

みなさんはサザンの「TSUNAMI」という唄をご存知ですよ。では、可部線にも加計町に「つなみ（津浪）」という駅があるのを知っていますか。なんと奇遇ではありませんか。奇遇ついでに想像力をふくらませて、「津浪」駅でサザンに「TSUNAMI」を歌って頂く、ていうのは素敵だと思いませんか。

私たち「かべせんTSUNAMI駅で桑田佳祐さんに会い隊」はこんな思いをすでに行動に移しています。加計町津浪地区の方々と連携しながら、サザンの津浪ライブの企画だけでなく、いろんな形で人や物の交流を楽しく進めています。

可部線の廃線問題があるこの時期に、「TSUNAMI」という曲がヒットしたのは天の助けかもしれません。桑田さんに感謝、感謝です。ぜひ津浪ライブを実現して、全国からたくさんの人に津浪駅を訪ねて頂くではありませんか。

あなたも津浪駅に行って桑田さんへのメッセージノートへ思いを綴って下さい。

「かべせんTSUNAMI駅で桑田佳祐さんに会い隊」へ入隊を希望される方、またはお問い合わせは、

〒730-0011 広島市中区基町5番61号

TEL 082-228-0447 FAX 082-228-7074

広島市青少年センター内

「かべせんTSUNAMI駅で桑田佳祐さんに会い隊」事務局へ

ホームページ...<http://ww4.enjoy.ne.jp/~tsunamitai/>

E-メール.....[tsunamitai@do5.enjoy.ne.jp](mailto:tsunamitai@do5.enjoy.ne.jp)

## 可部線に乗ろうよ！！

「環・太田川」事務局より

JR可部線可部～三段峡間の廃線をめぐって、試験増便がさらにもう一年間延長されることになりました。昨年11月からの試験増便期間中には、沿線自治体・住民の皆さまが一体となった努力と、イベントの参加などによる沿線以外からの積極的なご支援によって、大幅に乗客の数を増やすことができました。

さらに一年間、長丁場とはなりますが、前回以上の成果（輸送密度の増加）が求められています。沿線の方々の日常的な利用だけでなく、可部線を利用したイベントへの参加もとても大きな役割を果たします。折込のチラシのように、これからも日・祝日を中心に沿線では盛りだくさんのイベントが企画される予定です。

もちろん、沿線外にお住まいの方々による利用の企画も大歓迎とのことです！！ イベント企画のご相談や車両のご利用、貸切のご希望などなどございましたら、可部線対策協議会にお問い合わせください。少人数の企画でも、まずはお気軽にご相談ください、とのことです。

お問い合わせ先は、

TEL 082-504-2604

広島市都市交通部内 可部線対策協議会事務局へ

# 環KAN学GAKU

## エネルギー その一

### 太田川本流はパイプの中の巻

「太田川の本流はおまえ、川じゃのうてパイプの中よ。可部より上の川には、よいよ水はないんで。」 広島市内で育った私には、子供の頃山県郡の方から引越してきた近所のおじさんの言葉の意味が分からなかった。時々柳瀬や飯室に泳ぎに行っても、都会の子供のひ弱な体には恐ろしいほどの強い流れだった。安芸灘の島々など百数十万の人に水を配ってもなお、デルタの六つの川に水を湛える太田川。平成六年の、百年に一度といわれる濁水の時でも溢れることはなかった。この水豊かな川の中流に「水がない」とはどういうことか。



太田川橋下の放水口

「可部と八木の境の太田川橋に行ってみなさい。あの下から水がどうどう流れ出とるけえ。あれはみな上流のほうで発電用に取った水で。」 そういえば、もうだいたい前のことだが、あの辺で川に入って遊んでいて、急に流れが変わるのでびっくりしたことがあるが、そのときは、何かの排水口ぐらいにしか思わなかった。太田川の上



間の平発電所

流にダムがあることは知っていたが、ダムのすぐ下で発電をするものだと思っていた。だから、太田川橋の下に出ている大量の水と発電の関係など考えたこともなかった。

ところが、数年前、古本屋で手に入れ



宇賀ダム堰堤のそばを通る発

を蓄え、さらに下流の間の平、太田川発電所へ流す水の量を調節する場所だという。宇賀ダムの堰堤のすぐ横には、津伏の取水堰で取った水が流れる太いパイプが走っている。

ダムの堰堤と送水管（ヒューム管）の取り合わせも壮観だが、何より驚かされたのは、宇賀ダムの下流の高山川がほとんど干上がったようになっていたことだった。普段は農業用に別に水路を設けて少量の水を放流している以外は高山川には水を流していないというのだ。もはや川とは呼べない高山川を見て、長年胸にひっかかっていたおじさんの言葉の意味をようやく理解できた気がした。

少し古い資料だが、太田川の水力発電の歴史を書いた「中国地方電気事業史」という本（昭和49年）によると、一番上流から下流の太田川発電所まで、現在ある発電所の水の利用率はのきなみ68パーセント以上になっている。つまり、川に集まってきた水の三分の二以上を発電用に取水していることになる。見方を変えて、上流のダムから太田川橋の下までの間で、発電用に全く使われていない区間を高さの差で表すと（未利用落差）、わずか1〜3メートルしかないという。

そういえば、太田川沿いを列車や車で走っていると、近くにダムもないのに発電所がたびたびあらわれる。そして発電所の横には、決まって山の高いところから太いパイプがおりている。なんとなく、太田川の水力発電の仕組みが分かってきたような気がしたが、それでも「太田川本流はパイプの中」という言葉は実感のあるものではなかった。

太田川の水力発電の凄まじさを垣間見たのは、去年、広島市安佐北区にある宇賀ダム周辺を見学したときだ。宇賀ダムは、太田川の支流高山川に建設されていて、上流の発電用のパイプを通ってきた水と高山川の

そうすると、筆者のような若い世代が見てきた「太田川」、って一体なんなのだろう。あの優しいせせらぎは偽者で、「本当の太田川」とは、むしろ「豪流」とでもいうべき、もっと荒々しいものなのかもしれない。しかしこの事実は、河口の広島市民にとっては、現実には電気を一番多く使う立場にながら、アユ釣りかなんかで日頃中流や上流に行かない限り、想像もできない話なのではないだろうか。



水がなくて草原になっている高山川

川に水がなくなったらどうなるの  
だろう？

少し落ち着いて考えてみると、川というものは、何万年にわたる水と地球との対話によって、ゆっくりゆっくり現在の姿を作ってきたことに思い当たる。そして、目に見えている川の流れば、地面の下の水の動きとも一体になって影響しあいながら動いているはずだし、川を取り巻く生き物や人の暮らしも本来その水の動きと一体になって営まれてきたはずだと思う。そんな「場」で、人間の都合でいきなり川からほとんどの水を奪ったら何があこるのだろうか。太田川の恵みを受けながら、電気もたくさん使いながら生活しているのだから、そのことについて詳しく知りたいと思うようになった。(続く)

参考文献：中国地方電気事業史  
1974年、中国電力

水本 清隆

## 太田川は二本ある

芸北

### 太田川の水力発電の概略 (可部以西)

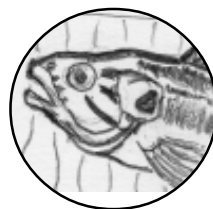


数字は取水した川の流量に対する、発電所地点での水の利用率(%)  
(昭和40年代当時)

「中国地方電気事業史」 1974

中国電力 より作図

# オヤ？？ニラニ



## 真のサステイナブル・コミュニティとは 第九回太田川サミット議事録より

昨年十一月七日に、東広島市で「第九回太田川サミット」が開催された。太田川流域市町村首長で構成される「太田川サミット」は、流域の自治体や県・国が交流しながら取り組むべき事柄について情報交換・提言を行う行政の場である。過去に、「川のふるさと整備構想」の策定や、「太田川流域振興交流会議」の設立などに取り組んできた。

## 「サステイナブル・コミュニティ」がサミットの大きなテーマになっている

サミットの議事録を読んでみると、一昨年度のサミットより大きな行動の方向として、「サステイナブル・コミュニティ（半永久的に持続可能なコミュニティ）の研究が提案されていることが注目される。「持続可能な社会」は、現在「流行りの」といってもいい過ぎではないフレーズだ。「サステイナブル・コミュニティ」とは、1990年代初めにアメリカで生まれた概念で、「強いコ

ミュニティの創造」「持続性の追及」を理念とし、「自然との共生」を図り、「自動車の利用削減のための交通計画」・「省エネ・省資源についての観点」などを持つことが要件として求められている（同議事録より）。先進的な事例によれば、地域のNPOが非常に大きな役割を果たしているという。



昨年のサミットでは、太田川流域を「サステイナブル・コミュニティ」にシフトさせるための具体的な取り組みとして、流域の下水処理汚泥を堆肥化して農家へ還元することを検討すること、可部線可部～三段峡間の存続へ運動を続けることがあげられている。広島市の秋葉忠利市長は、前者を「物の流れ」、後者を「人の流れ」をより「持続可能な形」に導くために必要な作業として位置付けている。

可部線問題については次頁にゆずるとして、下水処理汚泥が無害な形で肥料として土に還され、さらにそれが生ゴミやし尿の肥料化、循環にまで発展すれば、清流太田川の回復、地域の水循環を破壊しない有機農業の復権のために願ってもないことだろう。しかし、それらが実際に流域の農業の主要な肥料として利用されるようになるには、実に多くのハードルが存在する。このような取り組みが経営的にも安定した事業として発展するには、私たち住民が自らの生活を振り返り、実現のための具体的な戦略を工夫し、提案していくことが不可欠なのではないだろうか。「肥船」の存在に象徴されるように、あるいは部分的な形かもしれないが、少なくとも五十年前程まで「持続可能な」物の流れは極く自然に、生活のために欠かすことができない要素として受け継がれてきたのだから、全く不可能な話ではないはずである。

## 「循環」の破壊の停止が先ではないか

ところで、「サステイナブル・コミュニティ」の実現を、「太田川サミット」の大きな目標として掲げるのなら、現状はどこか片落ちの観をぬぐえない。この数十年間の私たちの暮らしは、もともと「サステイナブル」であったこの土地の様々な循環を破壊することであったともいえるのではないか。そ

して相も変わらず、「活性化」の名のもとに、破壊は続けられようとしている。例をあげれば、人家の全くない、生活道路としての機能が求められる太田川の水源地の林道が二車線の舗装道路として開発されようとしたら、必要性の疑わしい宅地開発や国道高架の延伸や高速道路建設、埋め立てなど、枚挙にいとまがない。この土地の現実には、「自然との共生」や「自動車利用の削減のための交通計画」というサステイナブル・コミュニティの要件に全く逆行する流れの中にあると言わざるを得ない。

このような破壊を止めること、あるいは破壊に依存する必要のない物や人の流れを模索することこそ、「サステイナブル・コミュニティ」実現のために第一に求められることではないだろうか。そこでは、「高度経済成長期」という「過去の栄光」を引きずった、「拡大」への妄執は通用しないだろう。今こそ全く別の価値観・発想が求められている。突飛な話かもしれないが、たとえば「西風新都」の遊休地を何が何でも住宅や工場にするのではなく、都市が排出するごみを利用した、有機農業をベースにした地域自給型の循環型コミュニティのモデル・実験地区を造るのはどうだろうか。

## サミットへの住民の参加・発言を

「サステイナブル・コミュニティ」実現のためには、地域住民の地に足のついた柔らかな発想が原動力となる。次回サミットは公開の方向で開催されるという。私たちも積極的に参加し、具体的な発言・提案を行えるようになりたい。（哲）

# 可部線問題がなげかけるもの

さらに一年間の試験増便へ

三月二十日、JR西日本と可部線対策協議会は、可部線可部～三段峡間の存廃について、四月一日から一年間の試験増便を再開することで合意した。

「規制緩和」という錦の御旗のもと、「ローカル線廃止に周辺自治体の同意を必要としない」という鉄道本来の存在意義を全く無視した法律が制定され、その最初のターゲットにされたのが可部線だった。しかし、太田川流域住民の思いが、公共の交通機関の運営にまで経済効率を最優先するJRの目論見を阻もうとしている。

## 可部線問題が教えてくれること

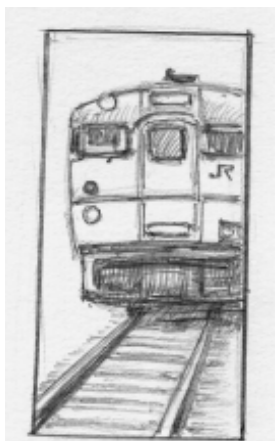
私たちは一年間の試験増便という前回以上の難問を突きつけられ、これからもありとあらゆる手を使ってみんなで可部線に乗らなければならぬ。同時に、これを機会に、可部線問題が私たちに何を投げかけてくれていたのか、足元を見つめなおしてみるのもいいのではないだろうか。

## モータリゼーションの行きつく所は？

現在の主な交通手段は都会だろうと中山間地だろうと自動車だ。高度経済成長期以降一

貫して、この国は「モータリゼーション」を上命題としてきた。その結果、鉄道路線は、東海道・山陽新幹線と首都圏・近畿大都市圏在来線をのぞいてのきなみ「健全な経営状態にはない」とされている。

一方で、つい最近、広島市内の中国地方最大の交差点では、「車の流れをスムーズにするために」、人間が地上を横断できなくなつた。かつてコンピューターが人間を支配するというSFが流行ったが、一足先に「人間が



車に支配される」時代がやってきた観がある。「モータリゼーション」も来るところまで来たようだ。

しかし、前頁でも触れた「太田川サミット」のテーマ、「サステイナブル・コミュニティ」から眺めると、可部線の廃線も紙屋町交差点の横断歩道廃止も、「自動車の利用削減のための交通計画」という要件に反していることは言わずもがなである。21世紀はできるだけ自動車に頼らない、拠点間の移動をできるだけ環境に負荷をかけない形で進める社会を建設することが大きなテーマにな

る。太田川水圏でも「自動車の利用削減のための交通計画」を具体的に立てるべき時期にきているのではないか。今回の廃線問題によって、むしろ可部線を、水圏全体が「サステイナブル・コミュニティ」になるために欠かすことのできない交通システムの一つとして位置付けていくチャンスに恵まれたとは考えられないだろうか。

## 太田川上・中流域と下流域の関係は？

別の角度から可部～三段峡間がなぜ大幅な赤字路線なのかを考えたとき、日常生活の中で太田川上流の方々が下流の都市圏に出勤することはあっても、都市に住んでいる方が上流の中山間地に通勤して携わる仕事はほとんど存在しないという現実がぶつかる。経済活動における都市と中山間地の一方的な関係が赤字という形であらわれている。鉄道が永く経営的に成り立つためには、日常的に双方方向に人が流れなければならぬ。

しかし、いまいちど「サステイナブル・コミュニティ」の考え方に戻れば、都市と中山間地、太田川でいえば上・中流域と下流域の「一方的な関係」が「持続可能」でありうるはずはないことは一目瞭然である。そしてそれが日常のあり方を問うものである以上、生業（なりわい）の問題であり、私たちが「サステイナブル・コミュニティ」実

現のためにどんな仕事を創り出せるか、太田川の上流域・中流域・下流域がどう「持続的に」支えあつていくかという問題だと言ひ換えることもできるのではないか。ここで、高度経済成長期が作った「仕事」や「お金儲け」に対するイメージは通用しないだろう。なぜなら、現在の都市と中山間地の一方的な状況は、まさに高度経済成長によって現出せられたものだからである。前頁の繰り返しになるが、今まさに「発想の転換」が求められている。

たとえば、「可部線に乗って広島から太田川上流域に通勤し、駅から自動車で移動して山の手入れをする。」という仕事があつてもいいのではないか。太田川水圏が「サステイナブル・コミュニティ」になるためには、広く人の流れが循環する仕事はいくらでも創り出せるのではないだろうか。可部線問題は、私たちに太田川を軸とした新しい「コミュニティ」建設の方向を探るために、天が与えた試験なのかもしれない。

## まず使いやすいダイヤを

一年間の試験増便では、日常生活でどれだけ可部線が利用されるかが力ギを握る。最低でも、沿線住民が日常利用しやすいダイヤで運行してみなければ可部線の必要性を論ずることはできない。前回の試験増便中のダイヤは積極的に可部線を利用させようとする意図が感じられる物ではなかった、という声が多い。JRは融通を利かせて沿線住民が最も利用しやすい運行形態を模索すべきである。

(哲)

# みずべのとしよかん

## 『太田川 瀬・淵マップ』

建設省(現国土交通省)  
太田川工務事務所編



太田川を歩いてたどるには必携の、とても楽しい詳しいマップ。



高瀬堰から上流の瀬や淵が、地元の古者からの聞き取りをもとに、舟運が盛んだった頃の呼び名とあわせて紹介してある。史料も詳しい。それにしても昔の人の言葉のセンスはすごい。藤波瀬(瀬に立つ泡が紫がかつた藤の花のように見えることからついた)、ツツミ瀬(川中にツツミ岩と呼ばれる岩があり、川水がこれに当たりゴボゴボと音を出していたことが由来らしい)、・・・。  
河原への進入路や付近の商店・飲食店も分かる。

「太田川 瀬・淵マップ」は国土交通省太田川工務事務所「GOGIROOM」で入手出来ます。

# 「環・太田川」より

## INFORMATION

### 「創刊記念イベント」盛況でした。



さる4月8日に「環・太田川」創刊記念イベント「太田川を環って川と私たちの新世紀へ」を広島YMCAにて開催しました。おかげさまで、およそ80名の参加があり、シンポジウム、展示とも大いに盛り上がりました。ありがとうございました。詳細は「環・太田川」別冊にてご報告いたします。お楽しみに。

### 「環・太田川」タイトルデザインを募集します。

ようやく創刊にこぎつきましたが、より楽しい、親しみやすい紙面づくりを心がけます。創刊を記念して、みなさまから表紙の「環・太田川」題字デザインを募集します。太田川が大好きになるようなデザインを考えてください。今のところ締め切りはありません。

### ボランティアスタッフ募集中!!

「環・太田川」をより充実させるため、みなさんの力を貸してください。取材・編集・事務・レイアウト・発送、どんな形でもOKです。よろしくお願い致します。お問い合わせは、「環・太田川」編集会議へ。

### 編集後記

太田川はその最下流に住む人間のみの都合の良いように利用されてはならない、とずっと思い続けてきました。広い視点で過去・現在を見つめ、未来を考える材料を集めたいと願っています。(幸田)

文章はー作るのはいぎいで、レイアウトもよつらん。誰かやってくれんかのう。ええ季節になってきたけえ、近々力又ーで進水じゃ。いっしょに行く奴はおらんか?(哲)

### 「環・太田川」定期購読会員になりませんか？ 一般定期購読会費は、 年間3,000円です。

月刊誌購読のほかにイベントや学習会の参加が無料になる賛助会員(年間5,000円)「環・太田川」の活動をさらに積極的に支援して頂く維持会員(年間10,000円)もごございます。

会費のお振込みは、郵便振替口座  
01390-6-20356

「環・太田川」事務局へ  
お問い合わせは 左記「環・太田川」編集会議住所・電話番号へお願い致します。パンフレットを送らせて頂きます。

### 「環・太田川」創刊号 (月刊) 2001.05.10 発行

「環・太田川」編集会議発行  
〒733 0852  
広島市西区鈴が峰町40 8 202  
原 哲之 方  
Tel・Fax 082 278 1044  
HPアドレス:  
[http://hiroshima.cool.ne.jp/kan\\_ootagawa/](http://hiroshima.cool.ne.jp/kan_ootagawa/)

年間購読 3,000円  
一部 300円

印刷 (有)アクト企画